

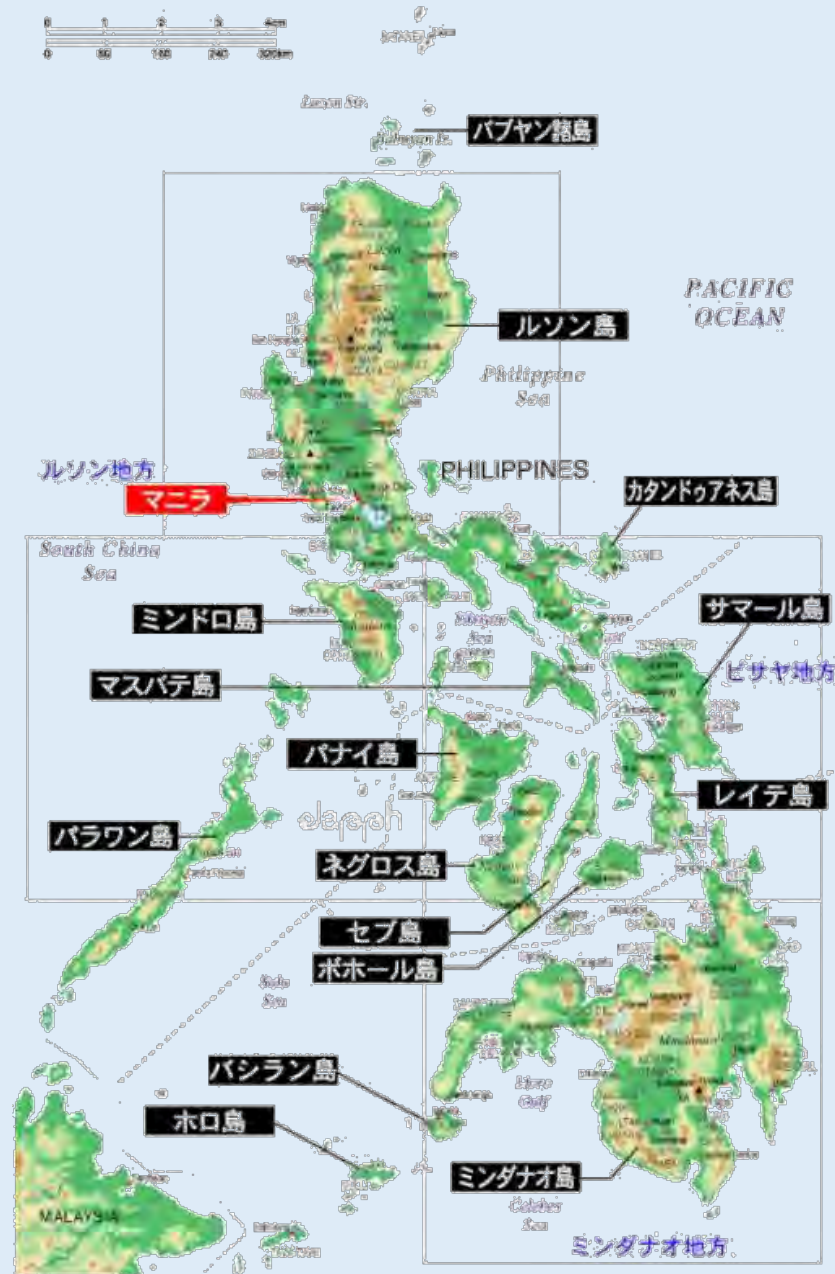
プラント建設従事者の見た

フィリピン



1. フィリピン共和国とは

地勢

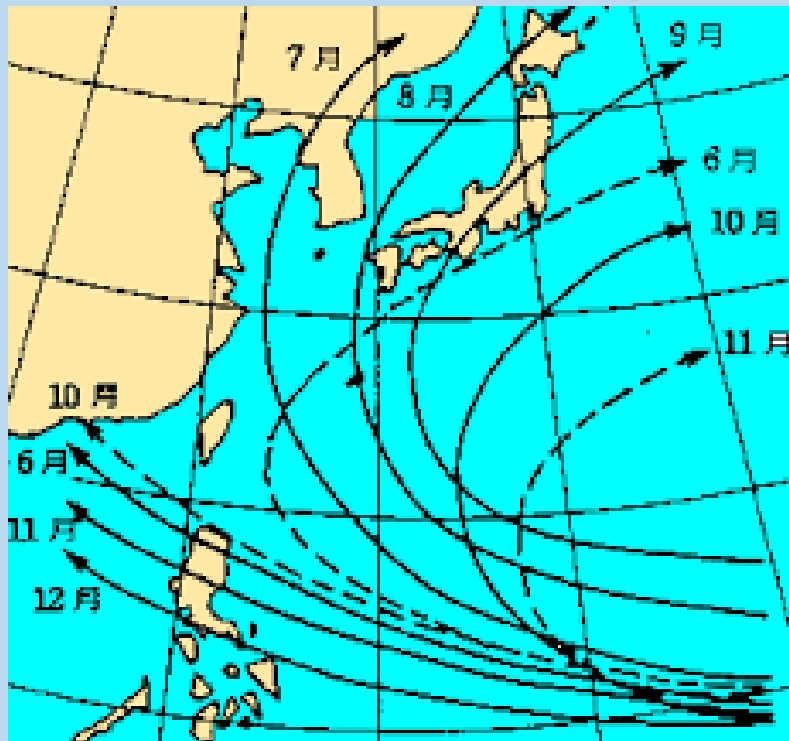
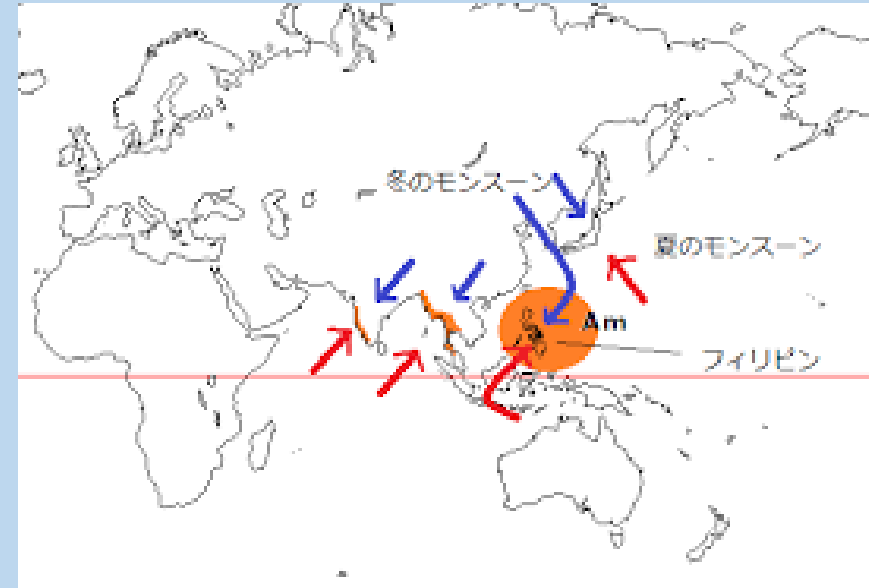


北緯5度から20度にわたる約7千の島からなる北のルソン島、南のミンダナオ島さらにセブ島など多くの島よりなる中部(ビサヤ地方)に大別される

1. フィリピン共和国とは

気候

ミンダナオ島南部は熱帯、
他は亜熱帯モンスーン



ルソン島は台風の影響下

1. フィリピン共和国とは

面積 約30万平方キロ(日本の約8割)

人口 約1億

マニラ首都圏などルソン島が約60%、セブなど中部(ビサヤ)が約25%、ミンダナオが約15%

民族 多民族からなるがタガログ族などマレー系が主他に華僑(福建からがほとんど)とスペイン人

宗教 キリスト教が90%以上(ほとんどがカソリック)イスラムが約5%(ミンダナオでは20%以上)

通貨 ペソ (1ペソ=約2.5円)
基本的には米ドルにリンク



2. 近世史と従事プロジェクト

	重要事項	歴代大統領	従事プロジェクト
1565	スペイン領となる		
1898	アメリカ領となる	1899-1901 アギナルド	
		1935-1944 ケソン	
1943	日本に占領される	(1943-1945 ラウレル)	
1945	日本から解放される	1944-1946 オスメニア	
1946	独立	1946-1948 ロハス	
		1948-1953 キリノ	
		1953-1957 マグサイサイ	
		1957-1961 ガルシア	
		1961-1965 マカパガル	
		1965 マルコス就任	
			1969-1970 CAREBI 砂糖工場 ①
1975	ベトナム戦争終結		
1976	日本の戦時賠償終了		
			1977-1981 PHILSECO 修繕船工場 ②
1983	アキノ事件		
1986	エドサ革命		
		1986-1992 コラソンアキノ	
1991	ピナツボ火山噴火		
		1992-1998 ラモス	
1992	米軍基地返還		
			1992-1995 NAPOCOR 発電所 ③
			1999 AGUNO セメント工場 ④
		1998-2001 エストラダ	
2001	エストラダ罷免		
		2001-2010 アロヨ	2003-2005 STEAG 発電所 ⑤
		2010-2016 ベグニドアキノ	
		2016 ドゥテルテ就任	

3. 歴代大統領

初代	アギナルド	ルソン島	カビテ州	独立運動家	スペインからの独立の中心人物 2年ほどでアメリカにより失墜
2代	ケソン	ルソン島	オーロラ州	独立運動家	アメリカ統治時代
3代	(ラウレル)	ルソン島	バタンガス州	政治家	(日本による占領下の政府)
4代	オスメニア	セブ島	セブ市	政治家	ケソンの死亡により副大統領から
5代	ロハス	パナイ島	ロハス市	政治家	アメリカからの独立後の初代
6代	キリノ	ルソン島	イロコススル州	官僚	ロハスの死亡により副大統領から
7代	マグサイサイ	ルソン島	サンバレス州	抗日運動家	新タイプで人気があったが事故で死亡
8代	ガルシア	ボホール島		抗日運動家	マグサイサイの死亡で副大統領から

3. 歴代大統領

Photo from Wikipedia




9代 マカパガル
ルソン島 パンパンガ州 官僚
前任のガルシアと争い勝利

10代 マルコス
ルソン島 イロコスノルテ州 軍人
20年間の長期独裁政権
イメルダ夫人共あまりに有名


3. 歴代大統領

Photo from Wikipedia

マリア・コラソン・スムロン・コファン
ンコ・アキノ
María Corazón Sumulong Cojuangco
Aquino



1986年9月15日

 フィリピン共和国
第11代大統領

任期 1986年2月25日 - 1992年6月29日

11代 コラソンアキノ
ルソン島 タルラック州 主婦
エドサ革命の象徴

フィデル・バルデス・ラモス
Fidel Valdez Ramos



 フィリピン共和国
第12代大統領

任期 1992年6月30日 - 1998年6月30日


12代 ラモス
ルソン島 パンガシナン州 軍人
アキノ引退後に後継者として選出

3. 歴代大統領

Photo from Wikipedia

ホセ・マルセーロ・エヘルシト
(ジョセフ・エストラーダ)
José Marcelo Ejército
(Joseph Estrada)



 フィリピン共和国
第13代大統領

13代 エストラーダ
ルソン島 マニラ市 俳優
庶民の絶大な支持でマニラ市長から

グロリア・マカレイグ・マカパガル＝
アロヨ
Gloria Macapagal-Arroyo



 フィリピン共和国
第14代大統領

14代 アロヨ
ルソン島 パンパンガ州 政治家
エストラーダの失脚で副大統領から
さらに1期選挙で選出も蓄財容疑も

3. 歴代大統領

Photo from Wikipedia



15代 ベニグドアキノ
ルソン島 タルラック州 政治家
母、息子2代の大統領に



16代 ドゥテルテ
レイテ島 政治家
麻薬撲滅運動の実績でダバオ市長から

4. 従事プロジェクト

① CAREBI 砂糖工場 1969 -1970

② PHILSECO 修繕船工場 1977 – 1981

③ NAPOCOR 発電所 1991 – 1995

④ AGNO セメント工場 1999

⑤ STEAG 発電所 2003 - 2005

① CAREBI 砂糖工場

1969-1970

3000T/D 粗糖工場新設

ルソン島 サンバレス州、ボトラン

客先: 比の民間企業 CAREBI 社

契約形態: 機器納入及びSV

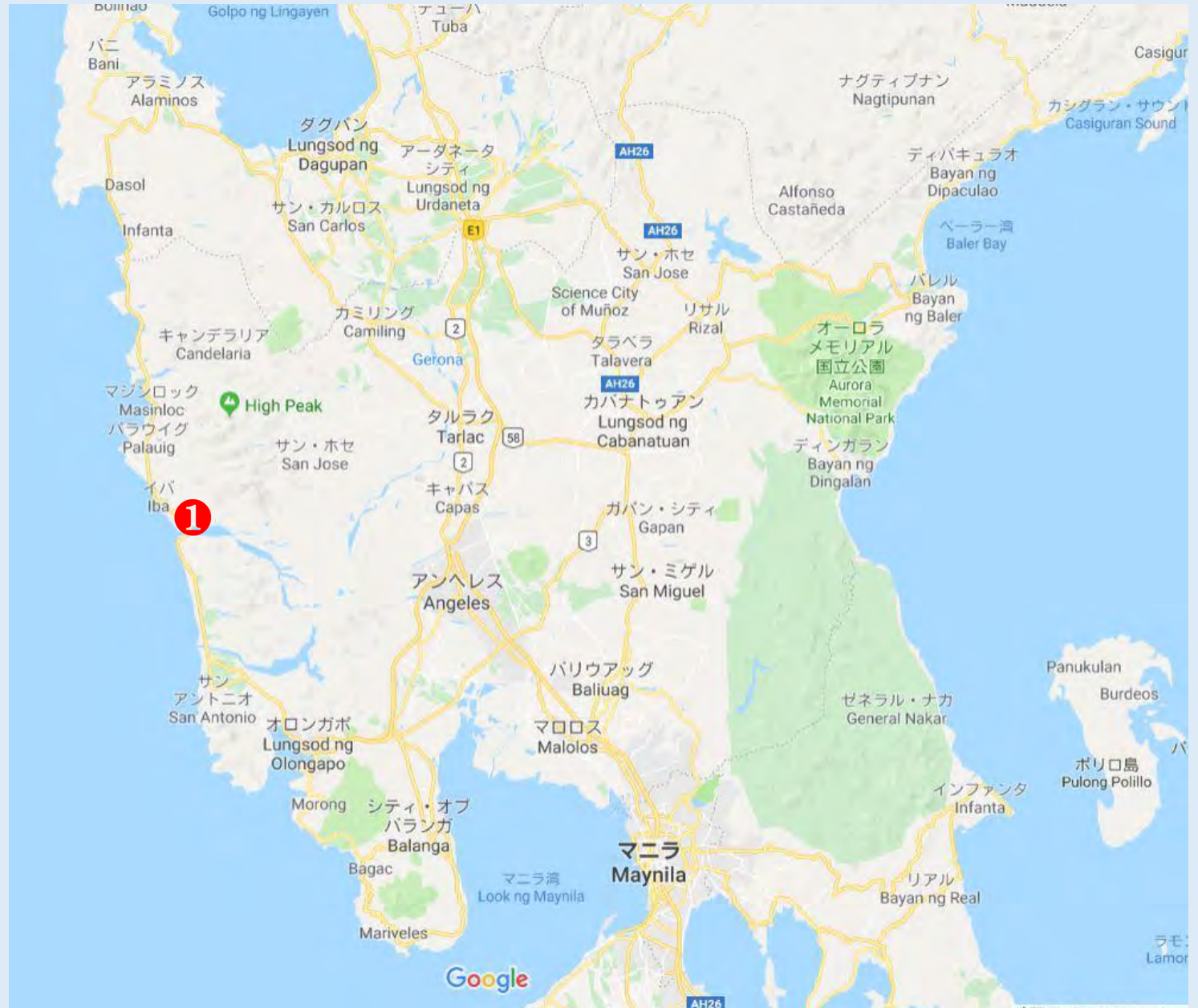
(CIFプラスSV)

契約金額: 10億円

現地業務: 技術指導

ボイラ基礎のトラブルで

補修工事を実施



② PHILSECO 修繕船工場

1977 - 1981

300,000DWT タンカー

修繕工場新設

ルソン島サンバレス州、スービック

客先：比政府と川崎重工の合弁
PHILSECO 社

受注形態：発注者

プロジェクト費用：200億円
(OECF 借款 10

8億円)
現地業務実施体制：新会社を設立
(内日本人5人)

OECFガイドラインによる
工場運営には失敗



③ NAPOCOR 発電所

1991 - 1995

2X300MW 油炊き

複合火力発電所新設

ルソン島バターン州、リマイ

客先: 比の電力庁

NAPOCOR 社

受注形態: BOT (20年運転)

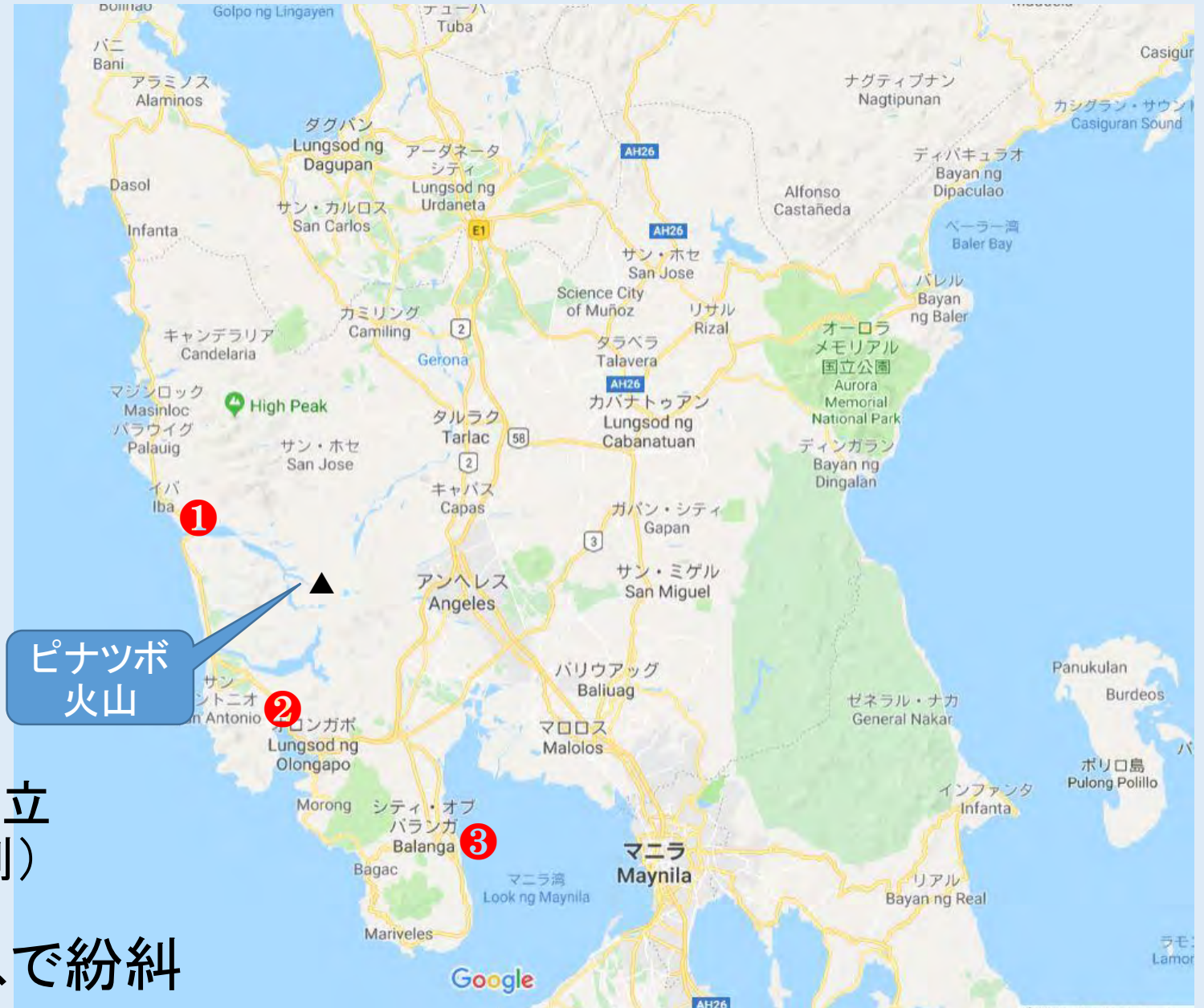
ABBと丸紅との3社JO

プロジェクト費用: 600億円

内川崎重工分360億

現地業務実施体制: マニラ支店を設立
(駐在員事務所とは別)

リマイの首長とビジネスタックスで紛糾
土建業者の経営危機



④ AGNO セメント工場

1999

4000T/D セメント工場新設

ルソン島パンガシナン州、アグノ

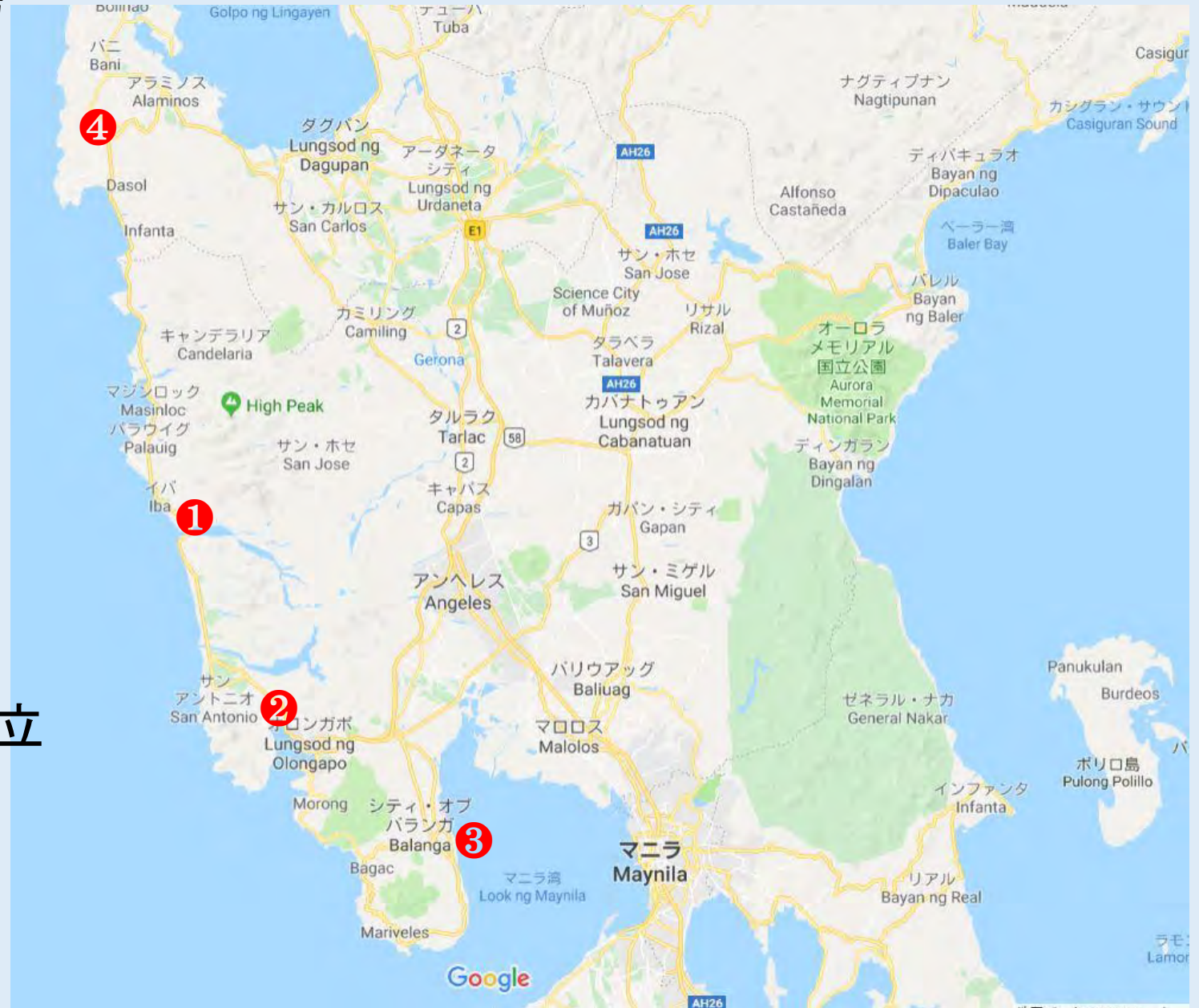
客先:台湾の民間企業
GOLDSUN 社

受注形態: EPCコントラクター

プロジェクト費用: 100億円

現地業務実施体制: 現地法人を設立

建設予定地の測量を終え
土質調査を開始したが
石灰石の量が不足で中止



⑤ STEAG 発電所

2003-2005

210MW 石炭炊き発電所新設

ミンダナオ島 ミサミスオリエンタル州

客先: 独の民間企業

STEAG (BOO) 社

受注形態: EPCコントラクター

プロジェクト費用: 200億円

現地業務実施体制: 現地法人を登録

地元対策に苦慮



着工直後



建設中



5.EPCコントラクターの主要業務

EPCコントラクターとは

1. Engineering Procurement, Constructionの全てを一括して請負う企業体
2. フィリピン外での行為は OFF Shore（日本企業本体が契約）
3. フィリピン国内での行為は On Shore（子会社である現地法人が契約）

● 現地法人に必要な登録等

1. 法人登録
2. 建設会社登録 (PCAB)
3. 税務登録（法人税、消費税など）
4. 銀行口座開設

● 主な業務

1. 客先への出来高請求
2. 下請けの選定、契約
3. 建設許可の取得
4. 下請けへの出来高査定
5. 工事管理（工程、品質、安全）

● 日本人職員の義務

1. 滞在ビザの取得
2. 労働許可の取得
3. 所得税、社会保険料の支払い

● 専門家の採用（法人）

1. 法律事務所
2. 税理、経理コンサルタント

● 不可欠な現地職員

1. 経理担当者（CPA）
2. 資格のある技術者

6. 国民性



男性はラテン系

無責任で信用できない者が多い

女性は農耕型

勤勉で責任感が強い

女系家族

家族の中心は母親

突出した富裕層

スペイン系地主と華僑の商売人

多くの貧民層

都市に集中した貧民がスラムを形成

海外への出稼ぎ

男性は中東で建設工事、女性は香港などでメイド

地方ボスの独裁

島が多いためか中央からの制御が困難。地方自治体の首長に権限が集中

先進国への移民

アメリカ、カナダなどへ知識人やその家族が多く流出

Photo from JTB



7. 日本との関係

高山右近

キリシタン大名としてマニラへ移住

戦時賠償時

特定商社の活動

マルコス政権時

丸紅の躍進

エドサ革命後

三井物産などの接近

工場進出

バブルがはじけるまで

日本人の移住

男性が日本の家庭を捨てて一リタイア組の永住

ご清聴ありがとうございました



2019年1月 アジア研究会発表 大川建樹